



# 洋上アルプス

No.35 | 令和6年度11月



## 2024年11月28日（木曜日）中央中で森林教室を実施（3回目）

中央中2年生52名に対して、屋久島森林管理署と当保全センターにて森林教室を実施しました。

この森林教室は、林業への理解を目的として、林業の流れが体系的に学べるよう、様々な森林施業内容について体験を交えながら、卒業までの3年間で一巡する森林教室を試行的に行っているものです。3回目となる今回は、屋内では森林の管理・森林施業・屋久島と戦争の関わりについての講義と屋外では収穫調査体験を実施しました。

はじめに当保全センター奥村所長より全体を総括し、「屋久島世界自然遺産地域～保護地区と森林整備地域～」と題し、屋久島世界遺産地域管理計画や屋久島憲章等を交えながら、保護と利用の両立、森林整備の土台となる前岳部分人工林地帯の重要性について講義が行われました。その後、クラスごとに分かれ、引き続きの講義と収穫調査体験をそれぞれ行いました。

引き続きの講義では、クイズや写真を交えながら、森林の機能類型や森林施業の内容について説明を行いました。1、2回目の森林教室の振り返りをしながら、より踏み込んだ説明を行いました。また、学校からの要望で、屋久島と戦争の関わりについて、当時の写真と現在の写真を見比べながら説明を行いました。生徒は初めて知る情報に驚きながら、身近に残る当時の面影を感じてくれたのではと思います。

収穫調査体験では、初めて使用する輪尺や測悍の使い方のアドバイスをもらいながら、中庭にある樹木の胸高直径と樹高を測定し、材積を算出しました。材積から測定木の価格についても話すことができ、より詳しい学習に繋がったのではと思っています。来年度には、全体のまとめとなる4回目の森林教室を行う予定です。



講義の様子(所長) (左)、調査方法について説明 (中)、輪尺を使用して収穫調査体験 (右)

## 2024年11月28日 木曜日 (株)竹中工務店が屋久島地杉の取組について来島

(株)竹中工務店設計本部からの依頼を受け、当保全センター会議室において同社の20代及び30代の若手設計者17名に対し、屋久島の森林・林業全般における現状と課題、当保全センターの概要等について、当保全センター奥村所長より講義を行い意見交換を実施しました。

今回は、同社が取り組んでいる森林グランドサイクルや持続可能なまちづくりと共感する部分が多くある屋久島の地杉活用等について、インターネットや各文献から得られる情報より一歩踏み込み、現地で触れて体験し屋久島の方々から情報を得たいと来島されたものです。

また、当保全センターHP「洋上アルプス306号」に掲載の「屋久島の林業・木材産業を知る」から情報を得て依頼があったことから、屋久島町役場林務担当者と連携し取り組むこととし、まずは、屋久島町の木造庁舎建築に関する地杉加工・利用の事例や木材加工センターでの加工・販売など紹介していただき現地でヒアリングされました。

当保全センターでは、最後の現地ヒアリングとして1時間程度の限られた時間でありましたが、「洋上アルプス」へ掲載した概要及び同社からのヒアリング項目等を中心に説明し、最後に台風10号により被害を受けた「弥生杉」についても触れ、屋久島における森林生態系の保全と利用、森林・林業の現況と課題等について幅広く説明し意見交換を実施しました。

若手設計者の皆様も自ら探しての屋久島ヒアリングであり、質問等も生態系や地杉の生産・販売・加工はじめ屋久島の現状等について幅広く出されるなど、屋久島に対する関心の高さを感じました。屋久島の木材が次のステップへと変化し、屋久島の活性化につながることを願っています。

当保全センターとしては、外部からの依頼も積極的に受け入れ、関係機関等と連携し取り組み、屋久島での様々な取組を「洋上アルプス」において発信していきたいと考えています。



概要等の説明(所長) (左)、質問・意見交換の様子 (中)、屋久島町役場 木造庁舎の説明 (提供：竹中工務店) (右)

## 2024年11月26日（火曜日）安房中学校にて森林教室を実施

安房中学校1年生23名に対して、当保全センター及び屋久島森林管理署で森林教室を実施しました。

当日はあいにくの天候だったため、教室内で校庭に植栽されている樹木の学習や、屋久島の森林生態系に関する講義と「シカと森のカード」というシカと生物多様性について学べるカードゲームを実施しました。樹木の学習では、班ごとに分かれ、林野庁職員が作成した「手作り図鑑」を使用し、10種類ほどの樹木について調べてもらった後、答え合わせを行いました。中には、葉っぱを見ただけで名前がわかる生徒もあり、校庭には50種類を超える植物があり、そのうち在来種は30種類以上あるということにとても驚いていました。どこにどの樹木が植栽されているか伝えたので、後日、実際に見てもらえたらうれしく思います。

その後、「シカと森のカード」を実践してもらいました。このカードゲームは、裏返しにしたカードをめくり、動物や樹木のカードを集めて「森」を造っていくのですが、シカのカードが増えすぎると一部の生き物や樹木が全滅してしまいます。生徒は、カードをめくるたびに一喜一憂し、時にはシカのカードをどう調整するか皆で話し合いながら学び、ゲーム終了後には、どんな「森」になったか発表してもらいま



した。シカをすべて駆除してしまった班、シカを含め多くの動植物がいる班とそれぞれの班で個性のある「森」ができました。その結果をもとに、シカが増えすぎるとどのような影響があるのか、シカの頭数を調整するために、林野庁がどのような取組をしているのか講義を行い、長年の各行政機関の取組の結果、最もシカの頭数が多かった年と比較すると、確実に頭数が調整されてきているといった講義を行いました。そして、シカも森を造るうえでの重要な構成要素の1つであり、多くの動植物がバランスよく生息していることも重要だと伝えることができました。



手作り図鑑を使用し樹木名を調査（左）、ヤクシカの骨を実際に見て学ぶ（中）、「シカと森のカード」で楽しく学ぶ（右）

## 2024年11月22日（金曜日）湯梨浜学園高校SSH事業屋久島研修生を受入

鳥取県湯梨浜学園高等学校からの依頼を受け、船行国有林III林班において同校2年生32名と教職員5名がヤクシカによる食害状況や対策等を現地にて体験学習しました。

同校は、環境保全に進んで取り組む科学的人材の育成を期待され、今年度より文部科学省にスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定され、野生鳥獣による森林被害対策等が進んでいる屋久島において、実践的な調査手法や対策方法等を学ぶことを目的として、貴重な森林生態系を有する屋久島を2泊3日の日程で訪れたものです。

限られた時間の中で、屋久島到着後は、現地体験実習の場へ直接向かい、当保全センターの業務概要を奥村所長が説明しました。その後は、森林作業道を歩きながら、古市行政専門員から、シカの食害状況や痕跡、笠松式くくりわなの設置場所や設置する際の注意点等について、詳しく説明し質問等を受けました。生徒たちも初めての屋久島であり、関心も高く鳥取県と鹿児島県の罾の大きさの違いを質問するなど、短い時間の中でも有意義な屋久島研修となったようです。

当保全センターとしては、外部からの依頼に限らず出来る範囲の中で、他の機関と連携しながら屋久島としての取組など説明紹介し、情報発信していきたいと考えています。



保全センター業務概要説明(所長)（左）、シカ痕跡・食害の説明（中）、くくり罾等の説明(行政専門員)（右）

## 2024年11月20日（水曜日）花之江河に堰設置作業

令和6年度の湿原保全対策の実施については、令和4年度に策定した湿原保全対策を踏まえ、本年度も局所的に浸食が進んでいる流路の浸食防止対策等を11月20日に、九州森林管理局、環境省、ガイド事業者、事務局の18名が参加し実施しました。

本年の対策内容として、10月26日の現地検討会で有識者より、東側流路が西側流路より地下水の低下に寄与しているとの助言により東側流路の流水分散対策の実施、祠土台部分の浸食防止対策及び、祠下流部分に浸食防止対策の実施が必要とのことでした。

当日の作業は、東側流路に5か所の堰（スギや広葉樹の枝条を束ねたもの）を設置し、流水を分散させるため木道下に枝条等の敷き詰めを行い、また、祠土台部分の浸食防止対策としてヤシネットで被覆し石積みを行い、祠下流部分に2か所の堰を設置しました。

新たに、浸食防止対策及び流水分散対策の試験実施を行いました。対策の効果を鑑みながら、今後も場所や手法を再検討するといった順応的管理に基づいて行っていくこととしています。



堰の作成（左）、流路に堰を設置（中）、堰の完成（右）